

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

「第3期千葉県教育振興基本計画」(令和2年度～令和6年度)に基づき、本県教育の振興に取り組んできたが、昨今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など予測困難な時代を象徴する事態が生じ、学校の教育活動への影響や学びの変容がもたらされた。
 こうした大きな社会の変化において、一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて教育の果たす役割が極めて重要となる中、今後の千葉県教育に関する基本的な計画として、令和7年度を初年度とする「第4期千葉県教育振興基本計画」を策定する。

2 計画の性格

10年後の「千葉県教育の目指す姿」を実現するための計画であり、教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育振興のための施策に関する基本的な計画」として策定する。
 本県の政策の基本的な方向をまとめた県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画「千葉県総合計画」の下での教育に係る個別計画としての性格を有する。

3 計画の構成と期間

- 「基本構想」と「実施計画」の2編構成
- (1) 基本構想:10年後
 - ・10年後の「千葉県教育の目指す姿」とこれを実現するための基本理念と基本目標
 - (2) 実施計画:令和7年度から11年度までの5か年
 - ・目標を達成するために、令和7年度から11年度までに実施する施策と主な取組

4 策定のプロセス

令和5年度に有識者会議を設置し、いただいた意見を踏まえるとともに、国の「教育振興基本計画」を参酌しつつ、教育関係者、関係団体からの意見聴取、パブリックコメントなど、多くの県民の声を反映しながら、第4期計画を策定する。

第2章 千葉県教育をめぐる現状と課題

1 第3期計画の検証

【千葉県教育全体の実施状況を示す目安(令和4年度)】

「学校生活」に肯定的な回答をした「児童生徒」の割合88.8%【概ね達成】…(要因)ICTの効果的な活用による学習環境の整備、各学校での教育相談の充実

「学校運営」に肯定的な回答をした「保護者」の割合87.3%【概ね達成】…(要因)コロナ禍にあっても工夫しながら教育活動を継続させたこと、各学校のSNS等を活用した積極的な情報発信の実施

「学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境が整っている」と回答した「保護者」の割合83.3%【努力を要する】…(要因)コロナ禍による学校・家庭・地域が一緒に行う活動機会の減少

青文字は第3回有識者会議で御意見をいただいた内容
 赤下線は学生アンケート結果上位事項

2 千葉県教育の課題と取り組むべき視点

①人口の地域間格差と少子高齢化

- 課題**
- 人口減少地域と増加地域間での、児童生徒数の偏在
 - 専門学科の志願者減
 - 教員不足 ●通学環境 ●地域行事の減少
- 視点**
- ◇魅力ある学校づくり ◇働きやすい職場環境 ◇地域との連携

②急速な社会変化への対応

- 課題**
- デジタル化、グローバル化、脱炭素化の進展、新型コロナウイルス感染症など、先の見えない急激な社会変化
 - 令和元年房総半島台風等の自然災害の激甚化、頻発化
- 視点**
- ◇教育DXの推進、AI・データの利活用、IT人材の育成
 - ◇グローバル人材の育成
 - ◇社会の課題を自ら見つけ、解決する力を育むための主体的・対話的で深い学び
 - ◇自己肯定感、自己有用感、自己調整力、情報活用能力、ウェルビーイングの向上
 - ◇自助、共助の防災意識の啓発

③経済・雇用情勢への対応

- 課題**
- 人材不足、労働力不足の深刻化
 - 産業界が求める人材と生徒の志向のミスマッチ(3年以内離職率40%超R2)
 - 労働市場の変容、必要な能力の変化
- 視点**
- ◇産業(京葉臨海地区・成田空港・スマート農業等)と教育の連携
 - ◇キャリア教育・起業家教育
 - ◇リカレント教育・リスキリング等

④多様なニーズに対応した教育

- 課題**
- 特別支援教育を受ける児童生徒の増加(H23→約2倍)
 - 外国にルーツを持つ児童生徒等の増加(H20→約2倍)
 - いじめ重大事案、不登校(R4:12千人)の深刻化
 - 子供の貧困や虐待、ヤングケアラーの顕在化
- 視点**
- ◇特別支援教育の推進 ◇共生社会の形成・社会的包摂性の推進
 - ◇オリパラ教育のレガシー継承 ◇日本語指導等の充実
 - ◇相談体制(SNS含む)の強化
- 学生アンケート(不安要素第3位:いじめ・不登校対応)

⑤質の高い教育を行う学校体制の充実

- 課題**
- 教員の多忙化(R4:時間外在校等時間45h以上42.4%)
 - 教員志願者数の減少(R6=2.4倍)
 - 若年層教員の増加
 - 地域や学校間の格差
 - 学校施設の老朽化、機能強化
- 視点**
- ◇長時間労働など業務改善
 - ◇外部人材の更なる活用
 - ◇チーム学校の推進
 - ◇部活動の地域移行
 - ◇教員の指導力・資質向上
 - ◇社会ニーズに応える魅力ある学習環境づくり
 - ◇安全・安心な学びの場の確保
- 学生アンケート(不安要素第2位:長時間労働)
- 学生アンケート(不安要素第1位:保護者対応)

⑥学校・家庭・地域の連携・協働

- 課題**
- 家庭や地域社会における教育力低下
 - 地域コミュニティの希薄化
- 視点**
- ◇学校運営協議会制度(CS)の導入と内容の充実
 - ◇家庭教育を地域で支える体制整備
 - ◇地域学校協働活動の推進
 - ◇地域コーディネーター等の育成

第3章 千葉県教育の目指す姿

1 基本理念

一人一人が持っている力を最大限に発揮し、自分らしく活躍できる教育を目指して
～人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来をつくる～

千葉県は、日本における世界の玄関口である成田空港、千葉港を有し、農業、水産業、日本を代表する工業地域など、全国屈指のバランスの取れた産業構造が形成されている。また、自然豊かな子育て環境、都市へのアクセスの利便性により、移住先としても人気が高く、全国規模で人口減少が進む中であっても人口の社会増が続いている。加えて、今後も成田空港の更なる機能強化、首都圏中央連絡道路・北千葉道路など交通インフラの整備により、国内外から新たな企業進出が見込まれる他、インバウンドの増加による観光分野の活性化など、今後も経済発展が期待される。

こうした中、本県を取り巻く教育環境は、教員不足、不登校・外国にルーツのある児童生徒への対応など、多くの課題に直面している。このような課題に対応し、千葉県の教育をより良い方向に進めるためには、教育の土台となる環境づくりが大切である。また、様々な産業のグローバル化、急速な情報通信技術の進展に対応できる教育環境を構築し、障害のある人、外国人など、異なる視点や経験を持つ人々が協働することで、子供たちが自信をもち、自己の個性や可能性を伸ばすことができる教育を推進していくことが求められる。

千葉県教育委員会では、子供たち一人一人が持っている能力を最大限に発揮し、自分らしく活躍できる教育を目指して、**本県の強みである都市と自然が交わる学びの舞台千葉で想像力や探究心を育み、**今後も発展を続ける千葉県の未来を創造する子供たちを育てていく。

2 基本目標・目指す姿

未来を切り拓く「人」の育成

- 確かな学力の育成
- 豊かな心、健やかな体の育成
- 社会で求められる人材の育成

青文字は第3回有識者会議で御意見をいただいた内容
赤下線は学生アンケート結果上位事項

ウェルビーイング
多様性

- ◆社会的変化を前向きに受け止め、自ら社会における課題を見つけ出し、主体的にその解決策を考え、提案するなど、積極的に行動する姿勢が育まれている。【学力】 **学生アンケ（子供に必要な資質能力①）**
- ◆郷土としての千葉や国を愛する心と誇りを持ち、自信を持って発信することができる力が育まれているとともに、グローバル化に対応し、国際社会における日本の役割を意識しながら世界で活躍できる力が養われている。【学力・人材育成】
- ◆全ての子供たちが自他の命と尊厳を大切にす豊かな人間性と道徳性が育まれているとともに、たくましく生きる力が養われている。【豊かな心】 **学生アンケ（子供に必要な資質能力②）**
- ◆世界の玄関口・バランスの取れた産業構造・豊かな自然を併せ持つ本県ならではの特性や強みを生かした教育により、千葉で活躍する人材が育成されている。【人材育成】

教育DX

- ◆デジタルリテラシーやAI・プログラミング等のスキルを持ち、未来のデジタル社会に対応できる人材が育成されている。【人材育成】
- ◆デジタル機器・教材を日常的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られている。【学力】

人材育成
産業界と連携

- ◆学校と地域・社会、産業界等が連携・協働したキャリア教育支援体制が構築され、社会で求められ活躍できる人材が育成されている。【人材育成】
- ◆探究、STEAM教育が推進され、新たな技術や価値を創造する人材育成及び女性の活躍推進が図られている。【人材育成】
- ◆京葉臨海地区・成田空港・農林水産業など、地域で必要となる人材を地域から育成・輩出できる教育環境が整っている。【人材育成】

子供たちの自信を育む教育の土台づくり

- 質の高い学校教育の推進
- 誰一人取り残されない多様な教育ニーズへの対応

- ◆業務改善を進め、教職員が心身ともに健康でやりがいを持ち、子供が学ぶ意欲を高める魅力的な教育環境が整っている。【高い質】
- ◆魅力ある優れた資質を有する教員の採用が進み、教員自らが使命感や責任感を持ち、指導力の向上に取り組んでいる。【高い質】
- ◆子供たちが、安全・安心に学び、学校生活を送ることができる環境が整っている。【高い質】
- ◆様々な困難を有する子供たちが健やかに成長し、誰一人取り残されることのない教育環境が整っている。【多様】
- ◆全ての子供たちがそれぞれの多様性を認め合うとともに、一人一人の能力・可能性を最大限発揮できる教育が実現している。【多様】

- ◆校務DXを通じた働き方改革が推進されている。【高い質】
- ◆教育データと学習履歴（スタディ・ログ）生活・健康履歴（ライフ・ログ）の利活用が図られている。【高い質】

- ◆京葉臨海地区・成田空港・農林水産業など、地域で必要となる人材を地域から育成・輩出できる教育環境が整っている。【人材育成】（再掲）

地域全体で子供を育てる体制と全ての人が活躍できる環境づくり

- 学校・家庭・地域の連携・協働
- 生涯学び、活躍できる環境
- 文化・スポーツの推進

- ◆家庭や地域社会における教育力が高まっている。【学校家庭地域】
- ◆地域や外部の人材の協力を得て、部活動の運営が図られている。【文スポ】
- ◆あらゆる人々が文化・スポーツの価値を見出し、生涯にわたって親しんでいる。【文スポ】
- ◆高い目標をもって文化・芸術活動やスポーツに取り組み、全国的に活躍している人が増えている。【文スポ】

- ◆家庭や地域社会における教育力が高まっている。【学校家庭地域】（再掲）
- ◆必要な知識・技能をいつでも、どこでも、誰でも学べ、個人や社会の課題解決など、生涯にわたり活躍できる環境が整っている。【生涯・活躍】

- ◆学校、家庭、地域、企業、高等教育機関などが連携・協働し、社会全体で子供の育成に関わる体制が整っている。【学校家庭地域】
- ◆必要な知識・技能をいつでも、どこでも、誰でも学べ、個人や社会の課題解決など、生涯にわたり活躍できる環境が整っている。【生涯・活躍】（再掲）